

令和元年度 新潟市立図書館指標別評価シート

【全市立図書館・図書室】

区分	評価指標	H29実績	H30実績	R1実績 (確定値)	前年度比	図書館運営全体
図書館運営	基本的サービス					自己評価
	資料購入費：決算数値(千円)	130,348	111,422	100,465	0.90	<p>外部評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入館者数が減少したが、外出自粛期間を除いて考えれば例年通りの水準となっており高く評価する。コロナ禍での運営で大変な部分もあったが、感染防止対策もされており、利用したいと考えている人が多いと感じた。 ・外に向かっている働きかけの着眼点が良いと思った。 ・選書についても限られた予算の中で、司書が色々話し合っていて購入しているとのこと、とてもありがたいと思った。 ・今は(この時期は)仕方がないと思った。 ・対応予算の増減が一概に貸出増減に高く繋がるとは思えない。 ・最近は電子書籍他気軽に簡単に書籍情報が得られることから利用減につながることはご承知済と思われる。選書会議の説明を受けたが、求める本、読みたい本、書架数が少ないため飽きられてしまうこともある。分類別蔵書、貸出や蔵書に対する貸出等実績数をみて、マンガ、郷土誌関係、技術関係等の資料を選書会議で検討することが大切である。 ・蔵書点検時期をコロナ感染拡大防止検討の中で、対策の詳細が不明によりその変更が難しくかつたとも思われるが、休校中とか休館中とかへ後倒しをしてほしい。 ・厳しい予算編成の中で、資料購入費が減額になった影響が出ている。担当者レベルの努力で補っているが、継続した予算要求が必要だ。貸出件数などは、新型コロナウイルスの感染拡大の中で、微減にとどまっている。 ・資料購入費がさらに減額されたが、職員の工夫による資料の提供に努めたことを評価する。 ・図書館利用啓発につながる一つでもある。新規登録者の増加方法の検討に期待したい。 ・数値的な評価結果は、長期的なスパンで変化を見る必要がある。特に今年度のようなコロナ禍でのデータは、来年以降を評価する時にどう評価するか検討が必要。 ・予算減額が続く中、どのように市民の要望に応えるか市民から読み終わった本の寄贈を募ったり、古書を買ったりとか対応策を考えていく必要がある。 ・図書館利用促進を期待する。
	蔵書点数(点)：図書・AV	1,916,149	1,899,480	1,902,827	1.00	
	個人の貸出点数(点)：雑誌・AV含む	4,323,637	4,293,069	4,204,403	0.98	
	個人の登録者数(人)	147,253	142,679	137,075	0.96	
	(内新規登録者数)	16,037	16,186	14,503	0.90	
入館者数(人) ※地区図書室除く	後期 新規 2,477,238	2,485,719	2,414,446	0.97		

区分	評価指標	H29実績	H30実績	R1目標	R1実績 (確定値)	自己評点	他の指標	評価(次年度への展開)
施策・事業(オンライン各館)	ネットワークを生かした「課題解決型図書館」							自己評価
	レファレンス件数(件) ※資料の所蔵調査を含む	98,077	93,559	94,000	96,766	3	教育ビジョン	<p>外部評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍でHPの予約が増えた。HPでの予約もわかりやすい。これからはHP上で情報などの掲載を充実してほしい。 ・良いと思った。コロナウイルスの影響が大きいと思うが、この機会に地域の図書館が市民にもっと身近に感じられる場であってほしい。 ・色々な階層、ジャンルを利用者対応を要求される(多様化、高度化)重要な事業であり、利用者の信頼と評価を高める図書館利用方法の質的向上と利用者増につながっていると思う。皆様の努力と評価。 ・個人予約件数の目標値が前年度実績と符合していないが、他の指標として提示されている「教育ビジョン」があるからという。同ビジョンが5年分の設定ならば、その指標に合わせなければならぬだろう。 ・レファレンス対応の質が向上してきた結果ではなかったか。評価する。さらなるサービス充実を期待したい。 ・インターネットでの充実に加え携帯電話からの予約が浸透してきたことにも評価する。さらなるサービス充実を期待したい。 ・ネットワークなどでレファレンスを増やし、それに伴う職員など、どうすればもっと件数が増やせるかを考えてほしい。 ・レファレンスに際するマニュアルの確立などをめざしてほしい。 ・インターネットを利用した予約など、滞在時間短縮につながる。大変評価できる。継続を期待する。
	個人予約件数(件)	748,184	763,747	743,000	773,314	3	教育ビジョン	
	ホームページアクセス件数(件)	1,138,570	1,043,039	1,100,000	1,080,132	2		
	ホームページアクセス件数(件)	1,138,570	1,043,039	1,100,000	1,080,132	2		
	特色ある地域づくりに寄与する「分権型図書館」							自己評価
	郷土・行政資料の蔵書冊数(冊)	119,284	123,515	124,000	126,105	3		<p>外部評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者が減っており、目標まで達することが出来なかったが、H30実績とほぼ同じくらい貸出しており成果が出ていると感じた。 ・コロナウイルスのこともあり、今は仕方がないような気がする。 ・歴史的なことや人物などに偏ることなく地域、色々なジャンルや地域で活躍する産業や生産物、作品、著名人等掘り起しの感覚で紹介していただく理解を深め図書館への愛着が湧く。 ・郷土・行政資料の収集を進め、市民への提供に努めたが、貸出数は目標に到達しなかった。 ・職員派遣依頼、連携・協力依頼ともに減少したため、目標を達成できなかった。
	郷土・行政資料の貸出冊数(冊)	36,113	36,647	40,000	35,337	1		
	職員の派遣人数(延人数) ※子ども読書推進以外の派遣	後期 新規 25	28	30	20	1		
	公民館等との連携・協力事業数(件) ※子ども読書推進以外の事業	後期 新規 32	44	45	36	1		
子どもの読書活動を推進する「学・社・民融合型図書館」							自己評価	
児童書の貸出冊数(冊) (12歳以下子ども一人当たり)	13.0	13.2	13.2	13.2	2	教育ビジョン	<p>外部評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもに関する事業は、コロナ禍では目標に達しないのは仕方ないと思う。 ・コロナ禍でも、安全に行える事業は継続してほしい。 ・子どもが参加しやすい事業を企画・実施は良いと思う。おはなしのじかんが減ったことは仕方ないと思った。 ・職員の派遣数が増えたことは良かった。 ・年度末近くにコロナ禍で対応に苦慮の中、新規事業に努力されたと思う。実績が伴わず残念。その中でコロナ感染拡大防止対応当初に、こどもとよかんで本の福袋のようなことが出来れば良かったと思うが、難しかったのだろうか。今後の災害時その他で参考になるのではなかった。貸出冊数・期間の拡大対応はもっと早くできなかったか。 ・活字離れが指摘される中で、地道な取り組みとして注目している。単年度ごとの評価も必要だが、それよりも長期的な評価が大切だと考えられる。子ども・親子対象の参加者数は、前年度実績が前々年度からの伸びが際立つ。そうした原因の検証が必要だろう。 ・子ども・親子対象事業で、子どもの特性をつかみ、参加しやすいことを評価する。 ・職員派遣の依頼数増加により、充実した事業が展開できることに期待したい。 ・なにしろ、授業に役立つ本や面白い本、心に残る本を司書や教師が見つけれ、子どもに勧めることが大切だと思う。中学校関係者にもそれをしっかりしてほしいと思う。 ・図書館で勧める本をまず学校で読ませることが大切だと思う。そのように教委も動いてほしいし、図書館もそういう本を探す力と努力を高めてほしい。 ・図書館での職場体験の機会などは、学校主催だけでなく、図書館主体の行事に取り入れてほしい。学校と図書館の日程が合わなかったなどという理由が工夫が足りなさすぎる。どんだん子どもと図書館の関係を深めてほしい。 ・子どもの特性をつかみ、参加しやすい事業は、高評価できる。企画は大変かと思うが、担当者の努力が伝わる。継続を期待する。 	
小・中・高等学校への団体貸出冊数(冊)	後期 新規 67,766	60,981	60,000	56,504	2			
子ども・親子対象事業の参加者数(延人数)	20,842	26,312	25,000	21,993	1			
職場体験受入人数(人)	168	160	170	154	2			
職員の派遣人数(延人数) ※子ども読書推進に関わる派遣	後期 変更 185	154	160	169	3			
公民館等との連携・協力事業数(件) ※子ども読書推進に関わる事業	後期 新規 8	5	10	8	2			
市民参画と協働を推進する「パートナーシップ型図書館」 ※ボランティア活動には、東プラ・穀川・金津・小須戸・西内野の各地区図書室を含む。							自己評価	
図書館ボランティア活動者数(延人数)	5,693	5,383	6,500	5,327	1		<p>外部評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動がストップした中、H30年と同じくらいの参加者数であり、ボランティア活動の積極性が感じられる。 ・コロナ禍なので、この人数で充分なのではと思った。 ・ボランティア育成は手間と努力が必要と思われるが館への協力的存在者として一定の予算化と柔軟な指導育成を望む。 ・市民が図書館運営に参加する機会として、評価している。単に活動者数の増減に対する評価ではなく、内容の評価を加えてほしい。 ・コロナウイルス感染症という未曾有な出来事が起きたことでの現象であった。 ・ボランティアとのパートナーシップなどいろいろな工夫して活発にやっていたきたい。 ・感染症前までの活動者数が増加は評価できる。 	
ボランティア団体交流会参加者数(延人数)	73	59	60	60	2			
利用者の意見を把握する機会の設定(回)	19 (全館協議会15回、 職場3回、西川1回)	18 (全館協議会15回、 職場3回)	18	18	2			
共催・協働事業の実施件数(件)	後期 変更 171	163	170	153	2			
効率的・効果的な運営(職員)							自己評価	
研修参加職員数(延人数)	1,065	1,251	1,300	889	1		<p>外部評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修の見直しは定期的に必須と考える。 ・司書の状況に合わせた、研修を導入しより良い図書館運営を行ってほしい。 ・参加人数が減ってもスキル維持や向上をしているなら問題ないと思う。 ・内部でのスキルアップに努力されたことは評価できるが、それだけのスキルアップには限界がある。費用的な面もあるが、より効果的な研修の在り方を模索してほしい。 ・図書館内部の研修の見直しと参加職員数の現象は、どのような関係性があるのだろうか。 ・ブラッシュアップは、必要である。継続を期待する。 	

※「自己評点」欄の数値について …… 3:目標値を上回って達成 2:目標どおり達成 1:目標値を下回った